

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成28年7月26日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4690101011
法人名	医療法人 厚仁会
事業所名	グループホーム あすなろ
所在地	鹿児島県鹿児島市高麗町21番29号 (電話) 099-251-8686
自己評価作成日	平成28年6月23日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=46
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人自立支援センターかごしま 福祉サービス評価機構
所在地	鹿児島県鹿児島市星ヶ峯四丁目2番6号
訪問調査日	平成28年7月13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

1階に診療所を併設しており、医療面での対応が充実しております。環境面では立地は利便性の高い市街地にあり、ご家族様にも面会がしやすいと喜んで頂いております。また長年診療所として地域との交流もあり、公園や学校も隣接しており季節を感じて生活していただいております。入居者様が今まで生活して来られた歴史を、職員全員で共有しながら、入居者様に施設での役割を持ってもらい長年続けて来られた趣味やお好きな事を出来るだけ継続していただきながら毎日の生活に楽しみや生きがいを持てるように支援しています。関連施設と合同で夏祭りや餅つきなど季節の行事を年間を通して楽しんでいただいております。年2回の家族交流会では入居者様を中心に、ご家族、スタッフが時間をかけ語り合える時間を持ち、入居者様は勿論、ご家族の思いもスタッフ間で共有して、望む生活の実現に繋げて行けるよう努めています。また、職員の質の向上にも力を入れており、施設内での毎月の研修や外部研修等、介護の実践に役立てています。介護福祉士や介護支援専門員等の資格修得にも協力体制をとっており、施設全体で介護のプロ目指して頑張っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・当ホームは利便性の高い市街地に立地し、ビルの1階には母体法人の医療機関があり、2・3階がホームである。利用者の健康管理及び緊急時等の医療連携体制が築かれている。介護老人福祉施設・サービス付き高齢者住宅等を運営しており、利用者の状況に応じた施設等を選択できることから家族等の安心となっている。
- ・母体医療機関は地域医療に取り組んでおり、ホームも地域の理解を得ている。
- ・災害対策として定期的な訓練と安全対策の整備がされている。防災避難訓練へ町内会長や民生委員の参加があり、具体的な改善についての助言を活かしている。
- ・施設長及び管理者は計画的なホーム内外での研修受講や資格取得の支援を行い、職員のスキルアップに取り組んでいる。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	理念はいつでも見られるようにホールに掲示してあり、カンファレンス時や業務の流れを確認する全体会議時に職員全員で唱和し共有して実践に繋げている。	ホーム独自の理念をホールに掲示しパンフレットにも掲載している。カンファレンスや全体会議で唱和し話し合い、振り返りを行い、理念に沿ったケアを実践している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	長年、地域医療を担ってきており、町内会長や地区の民生委員とも気軽に相談できる関係である。荒田小地区の文化祭への出品やサマーボランティア受け入れ等、地域との交流を図っている。	町内会に加入し、回覧板等で地域と情報を共有している。地域の避難訓練や炊き出しなど行事にも積極的に参加している。保育園児との交流や小・中学生のサマーボランティアの受け入れなど日常的に交流している。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	認知症についての相談やグループホームへの入所相談は出来るだけわかりやすく丁寧に応じるように心がけている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>ご家族や民生委員、長寿あんしん相談センター職員の方々に出席いただき、感染症対策や災害時の対応、終末期の対応等にご意見を伺い、改善策やサービスの向上に役立っている。また、家族交流会や消防訓練時に会議を行い、出席者が偏らないように配慮している。</p>	<p>会議は定期的開催している。事業所の状況や外部評価の報告などを行い、意見交換をしている。避難訓練にも参加してもらい、参加者からの助言で地震対策やヒヤリ・ハット対策に活かしている。</p>	
5	4	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。</p>	<p>介護保険の更新時や事故報告など担当窓口を訪問して情報交換を行っている。</p>	<p>市担当者とは、更新時や事故報告など必要に応じて電話や窓口に出向き相談や情報を交換して助言を貰っている。介護相談員も受け入れ連携を取っている。市主催の研修会やグループホーム協議会にも積極的に参加している。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>職員研修で身体拘束の弊害や禁止となる具体的な行為を職員全員で学習し、常に自分自身のケアを振り返り、身体拘束をしないケアを実践している。</p>	<p>身体拘束廃止委員会でマニュアルに沿って研修会を実施している。事例検討などで職員の共通認識を図り、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。言葉の拘束についても日々確認し配慮している。玄関は昼間は施錠せず、帰宅願望が強い場合は、見守りや気分転換など職員間の連携で安全な暮らしを支援している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員研修で虐待の具体的内容や発見時の対応など職員全員で学習し、共有し合い、虐待防止への意識を高めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	家族交流会での運営推進会議の議題で取り上げたり、機会があるごとに権利擁護の内容を説明している。利用される方がいれば管理者を中心に対応している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時や解約時、改定時は随時、内容を声に出しながら説明し、その都度、理解されているかを確認している。また、疑問点が無いかを尋ね、納得しているかを確認し同意を得ている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	日常の生活の中や利用者の表情から要望をすくい取るようにしている。また、家族交流会や運営推進会議等で家族の要望を伺う機会を設け、出された意見や要望はカンファレンスで話し合い改善している。	利用者からは日々の関わりの中で意見や思いを聞き、家族からは面会や家族交流会・運営推進会議などで意見を聞いている。市相談員との意見交換の結果も参考にしている。遠方の家族には便りや電話等で対応している。出された要望でコーヒーはブラックにしたり、日記帳を準備するなど、意見を生活に反映している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	カンファレンスや全体会議等で話し合いを持ち、意見交換を行っている。出された意見や提案は皆で検討し、より良い施設になるように取り組んでいる。	代表者や管理者は申し送り時や職員会議等で職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。相談事は個別に聞き適切に助言をしている。提案により、買い物当番を工夫するなど業務改善に繋げている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	施設長はミーティングや時間を作っては施設に来られスタッフの労をねぎらったり、元気づけて下さったりしている。また、資格修得にも理解があり、各自の向上心を大切に援助している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月、職員研修を行い、介護の質を高めるように努めている。外部の研修にも参加する機会を作り、参加したスタッフが中心になり次の研修へつなげている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	関連グループの管理者と事例検討を行うなどして質の向上に役立てている。また、職員間の交流を図り、介護の質の向上に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>事前に関係施設から情報収集を行い、利用者の希望や困りごと、不安を聞き取り要望に応え安心して生活できるように努めている。</p>		
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>家族の希望や困りごと不安などを聴き、疑問点には丁寧に対応して信頼関係を築けるように努めている。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>相談時、早急な対応が必要かどうか、利用者やご家族の思いや状況を確認し、その方にとって必要なサービスを柔軟に検討し、必要があれば他のサービス等の紹介を行っている。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支え合う関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>職員は利用者と互いに共に生活する者同士という事を理解しており、利用者の出来る事、出来ない事を見極め、お互いに支え合う関係を築いている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族には面会の機会を多く作っていただき、家族にしかできない情緒面でのケアをお願いしている。情報交換を密にして、利用者が安心して生活できるように支援している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人や親戚の方に自由に面会してもらい、馴染みの美容室や買い物、お墓参り等、これまでの関係が途切れることなく継続できるように支援している。	親戚や友人・知人の訪問を奨励し、お茶を出すなど継続的関係が途切れないよう、働きかけている。家族の協力で外出や外食・墓参・理美容院利用などの支援をしている。手紙や電話の取次ぎなども行い、携帯電話を所持し家族とのやり取りも支援している。毎月「あすなる通信」で近況報告を家族へ送付し、関係が途切れないよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の個性を把握し、利用者同士が交流する中で良好な関係を築けるように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了しても、いつでも相談に応じる旨を伝え、入院先へ状態を見に行ったり電話をもらったりして、相談や支援に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	意思表示のできる方は直接、本人から思いや意向をお聞きしている。また困難な場合は、日々のかかわりの中で本人の思いや意向を職員間で見極めながら把握するように努めている。	日常の会話の中で言葉や表情などから思いや意向の把握に努めている。直接聞き取ることが多い。困難な場合は家族や関係者からも情報を得、利用者の仕草や行動等から意向の把握に務め、スタッフで本人の思いを達成できるよう話し合っって支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に情報をもらい、スタッフ間で共有している。入居後も折にふれ、本人や家族から今までの生活状況やサービスの利用等を聴き把握するように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人ひとりの生活のリズムや心身状態の把握に努め、受け身ではなく生活している実感を持てるように支援している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者会議で利用者、家族、職員、主治医と利用者がよりよく暮らすための介護方針を話し合い、介護計画が現状に即しているかを期間を決めて検討している。	本人や家族・主治医など必要な関係者の意向を確認し、担当者会議で話し合い個々に応じた介護計画を作成している。1ヶ月毎にモニタリングを実施し、6ヶ月毎に見直している。状況が変化した時は現状に即した介護計画を作成している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員が日々の気づきを業務日誌、ケース記録、申し送りノート等に記載した内容をカンファレンスを通して職員間で情報の共有を図っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院受診介助や買い物など利用者や家族の希望や状況に臨機応変に対応し、利用者や家族の満足が得られるように努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者が安心して地域で生活できるように地域の町内会や民生委員、警察、消防署に協力をお願いしている。介護体験やサマーボランティア等を受け入れ、利用者が安全で豊かな暮らしができるよう支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に主治医や診療内容の希望を伺い、利用者や家族の意向に沿うように努めている。また、受診時、適切な治療が受けられるように情報提供を行っている。	本人や家族の希望するかかりつけ医の受診を支援している。協力医療機関からの月2回の診療や緊急時対応の医療連携体制が整っている。整形外科や眼科などの他科受診は家族の協力も得ながら支援している。受診結果は家族と共有している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	1 Fに診療所があるので、血圧や体温の異変時には、すぐに連絡できる体制になっている。また、夜間帯や緊急時にも担当看護師や主治医に相談や看護を受けられるようになっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、介護サマリーや薬剤情報を提供して医療がスムーズに行われるように努めている。また、担当医の説明には家族の同意を得て同席し、退院支援にも早い段階からかかわるように配慮している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期に係る対応の指針を定め、入居時に家族に説明し同意を得ている。また、状況に応じて家族や主治医と話し合う機会を持ち、施設での看取りを希望される場合は、訪問診療や訪問看護師、職員で共に協力しながら支援できるように取り組んでいる。	契約時に重度化や終末期に伴う対応の指針を説明し同意書を貰っている。状況変化に伴い随時話し合い、事業所が対応し得るケアについても説明し、主治医や関係者が連携して家族と方向性を共有できるよう取り組んでいる。看取りの事例もある。職員は関連の勉強会を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応や応急処置のマニュアル作成や研修を行っている。研修には看護師も同席し、より実践的な対応が出来るように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>火災、地震、風水害のマニュアルを作成し、年2回消防訓練を実施し災害時の避難体制を職員間で話し合っている。また、訓練に地域の町内会長や民生委員に参加してもらい地域の協力をもたらえるように取り組んでいる。</p>	<p>年1回消防署立会いのもと昼夜想定避難訓練と別に年1回運営推進会議参加者や地域住民の協力のもとで昼夜想定避難訓練を実施している。避難場所や避難経路については消防署や運営推進会議での助言を活かし、ビニールも多めに装備している。災害時の水やご飯・カレー・ラーメン・インスタント食品等の備蓄やカセットコンロの備品もある。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入浴時や排泄時などプライバシーや個人の人格を尊重するように配慮している。利用者は共に生活する家族であり人生の先輩であることを忘れずに尊敬の念を持って接するように努めている。	マニュアルや勉強会で職員の理解を深め、個々に合わせた呼びかけや節度ある言葉づかいで、誇りやプライバシーを損ねないように努めている。入浴や排泄時などでは羞恥心に対する配慮がされている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の思いや希望に理解を示し、何事も利用者の気持ちを最優先し、利用者が自分で決めて納得のいく生活が出来るように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事やお茶の時間はある程度、決められているが、それ以外は利用者のペースで生活していただいている。また、行事やレクレーション等の参加は利用者の意向を尊重しながら行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	毎日、服やアクセサリ等、自分で選んで身に付けてもらっている。定期的な訪問美容室の他、馴染みの美容室を利用して好きな髪形を楽しんでもらっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の嗜好を把握し、旬の素材で行事食等、メニューに工夫を凝らしている。献立を一緒に考えたり、下ごしらえや後片付けを手伝ってもらっている。職員も同じテーブルを囲み食事を一緒に楽しんでいる。	旬の食材で嗜好に配慮した献立や食事形態で提供している。利用者個々人の力を活かして準備や片づけを職員と一緒にしたりしている。外食や誕生会食・行事食・弁当持参の花見等にも出かけている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分摂取量は利用者ごとに記録し、定期的な体重測定や栄養状態を把握している。水分摂取が困難な場合にはゼリーにする等、工夫して対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きの声かけを行い職員が傍で見守り、綺麗になったかを確認している。一人で出来ない方は職員が義歯と口の中を綺麗に磨いている。義歯は職員が預かり毎日洗浄している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表等で利用者の排泄パターンや習慣を把握し、トイレ誘導や声かけでトイレでの排泄が出来るように支援している。	排泄チェック表から排泄リズムを把握して、個々に言葉かけや誘導でトイレでの排泄や排泄の自立を支援している。排泄用品は個々に応じて対応し、オムツからリハビリパンツに改善した事例がある。夜間は状況に応じてポータブルトイレも利用している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便や水分摂取量のチェックを行い定期的な排泄があるように努めている。また、日頃から繊維質の多い食材や乳製品など多く摂ってもらうように心がけている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	入浴の曜日は決めてあるが、利用者の希望で臨機応変に対応している。入浴拒否される時は無理強いせず声かけや職員の変更等で気持ちよく入浴してもらうように心がけている。	入浴は基本的に週3回であるが、希望に添った入浴や入浴剤を使用したり、保清の必要に応じて実施している。入浴をいやがる利用者には声かけや時間調整、同性介助など、状況改善に努め入浴の支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調や生活習慣に合わせて、自分のペースで横になっていただいている。昼間は活動してもらい夜は良眠してもらうように努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ファイルで薬の内容や用量、用法を確認できるようにしている。薬の処方の変更は申し送りノートやカンファレンス等で情報を共有し、確認しあっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>利用者の得意な事、長年続けてきた趣味や好きな事、興味がある事を情報収集しており、手伝い等、施設での役割を持ってもらっている。またレクリエーションでお好きな事を取り上げ、一人ひとりの生活に楽しみが持てるように支援している。</p>		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。</p>	<p>利用者の希望に応じて散歩や買い物等、出かけている。また、家族との外食やお墓参り、馴染みの美容室や自宅への外出等の機会が持てるように支援している。</p>	<p>日常的には周辺の散歩や買い物に出かけている。計画を立て、お寺参りやドライブ・弁当持参で花見などにも出かけている。車椅子対応の車両も利用し、外出が楽しみなものになるよう工夫している。家族の協力で外泊や外出・外食・墓参・美容院利用などにも支援している。</p>	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>利用者や家族の希望により、本人でお金を管理していただき、買い物が出来るように支援している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	携帯電話を持っている利用者はいつでも電話できる状態である。また本人が希望すれば施設から電話の取り次ぎもしている。手紙も書かれた時は投函するなどの支援をしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設全体を清潔に保ち、カーテンも落ち着いた色を選び、過ごしやすい空間を作っている。ホールの中央に仏壇を置き、利用者が朝夕、手を合わせ落ち着ける場所となっている。ソファを置き、思い思いの場所で過ごせるように配慮している。	共用の空間は、バリアフリーで採光や換気・温度・湿度に配慮し清潔である。壁には利用者の作品や行事の写真等が貼布してあり、季節感を大事にした飾りつけがなされている。仏壇も配置されている。利用者はソファに数人で座り会話等を楽しんで、居心地よく過ごせるような工夫がされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにソファを置き、そこで利用者が一人になったり、気の合う者同士で過ごせるように工夫している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>入居時に使いた家具などを持ってきていただくようお願いしており、自由に利用者が好みのもで部屋を飾られ、居心地の良い空間を作っている。</p>	<p>居室はベッドと洗面台が備え付けである。本人の好みに合わせてテレビやダンス・机等の家具を持ち込み、ぬいぐるみ・位牌等を置いて本人が落ちついて過ごせるようにしている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>廊下やトイレ、浴室など手すりが付けており安全に移動できるように配慮されている。施設内は段差が無くバリアフリーになっており、車イスの方もスムーズに移動できるようになっている。</p>	/	/

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない